

## 丹波市未来都市創造審議会（第1回） 会議録（要旨）

- 日時：平成30年4月20日（金）午後2時～
- 場所：氷上住民センター 大会議室
- 出席者委員：
  - 識見を有する者：角野幸博委員、北川博巳委員
  - 公募による市民：荻野美恵子委員、白滝里香委員、本庄健吾委員
  - 公共的団体の代表者：大野亮祐委員、大谷吉春委員、吉住孝信委員、田中延重委員、坂谷高義委員
  - 各種団体等から選出された者：足立はるみ委員、足立由夏委員、大木玲子委員、十倉貫委員
  - 関係行政機関の職員：福本豊委員
- 欠席者委員：
  - 識見を有する者：岡絵理子委員
  - 公共的団体の代表者：酒井浩二委員
- 出席職員：
  - 丹波市長、丹波市副市長、技監兼入札検査部長、企画総務部長、企画総務部政策担当部長、財務部長、生活環境部長、まちづくり部長、福祉部長兼福祉事務所長、健康部長、産業経済部長、建設部長、教育部長
- 事務局：
  - 未来都市創造部長、未来都市創造部都市創造課長、未来都市創造部都市創造課都市政策係長、未来都市創造部都市創造課都市政策主査

議事：（1）丹波市未来都市創造審議会の会議運営要領、傍聴規程の認定  
（2）新しい都市構造のあり方「まちづくりビジョン」の策定について

- 資料：【資料1】丹波市未来都市創造審議会 委員名簿  
【資料2】丹波市未来都市創造審議会 関係職員名簿  
【資料3】丹波市未来都市創造審議会設置条例  
【資料4】丹波市未来都市創造審議会の進め方  
【資料5】諮問書（写）  
【資料6－1】丹波市未来都市創造審議会に関する運営要領（案）  
【資料6－2】丹波市未来都市創造審議会に関する傍聴規程（案）  
【資料7－1】丹波市の現状と上位・関連計画の要点整理  
【資料7－2】市内の都市構造の形成に係る主な施設の分布状況  
【資料7－3】「丹波市の未来を見据えた都市構造」議論用資料

## 1 市長あいさつ

委員に就任いただき心より感謝申しあげる。来年7月には県立丹波医療センターが完成する。単に医療拠点ができるということだけではなく、丹波市の地方創生の拠点（シンボル）ができると感じている。

病院のオープンにより、市内でも少なからず人口移動が起きてくる。病院を契機としたまちづくりをどのようにしていくかということを考えるきっかけになった。

2018年の覚悟として「“まち・人づくり”八策」を掲げており、この中で「目指すべき丹波市のまちづくり」を考えることが一番大切だと思っている。20年後を見据えて、まちの形を変えていきたいと考えている。難しいテーマであるが、この場でも検討いただきたい。慎重かつ楽しい審議会になれば私としては嬉しい。1年間よろしく申し上げます。

## 2 会長及び副会長の選出

会長：角野幸博委員

副会長：大野亮祐委員

### 【要旨】

- ・審議会委員の互選により、会長・副会長を選出する。

## 3 議事

(1) 丹波市未来都市創造審議会の会議運営要領、傍聴規程の認定事務局（資料6-1と資料6-2の説明）

### 【意見要旨】

- ・運営要領や傍聴規程については、特に意見はなく承認決定

(2) 新しい都市構造のあり方「まちづくりビジョン」の策定について事務局（資料7-1～7-3の説明）

### 【意見要旨】

委員

公共交通移動手段について、今後、携帯の端末を使ってデマンド（予約）型乗合タクシーのシステムは発達していくことが考えられる。将来のまちの姿における公共交通手段を考える際の項目に加えるべきである。観光振興の関係については、将来的に高速道路の延伸が見込まれ、インターチェンジを活用した観光振興が必要である。また、地域資源としては城下町や古民家等の歴史文化といった要素を考える必要がある。安全・安心については、山裾の土砂災害に対してどうしていくのかといった考え方が必要。文化・スポーツ的な施設は山裾にも立地しており、それらの施設を利用する楽しみ方もあるといった観点を持つことが必要。自分の住まいや、日常の生活空間をどうしていくかという視点を膨らまし加えることでリアリティが増す。

#### 委員

山南地域は中学校の統合問題を抱えている中で、新しい委員会が発足し、今後議論していくことになる。どこに統合中学校を建てるのか、といった場所の問題で何年も議論しているが決まらない。新しい委員会で、また何年も場所の議論をするのは無駄である。場所の問題だけでなく、教育の質を高めるといった指標が設定できれば、そのような指標も入れた議論をお願いする。

#### 会長

学校の問題だけではなく全ての施設について、どういうライフスタイルが目標になっていて、そのために最も望ましい施設配置、マネジメントも含めて、住民の方が最も快適に、或いは効率的に使えるような施設配置と並行して、都市の政治を合理的・経済的なものしていくといった両方の視点で議論していくことが必要であり、今後そのような議論になっていく。検討材料を議論するための情報としてもらえればよい。

#### 委員

合併後、急激に青垣地域の人口は減少している。これから20年後、青垣地域自体が存在するのか危機感を感じる。このことに対し、この議論の中でどのように活かしていくのか。きれいごとでは済まないと思う。そのような現実がわかるようなデータが必要であり、データを踏まえて深く考えていくことが必要である。

#### 委員

学校統合については、我々の地域でも関心がある。心配しているのは、学校統合がありきで話を進めていくことに対して不安を感じる。また、財政は大丈夫なのかという意見も出ているので、慎重に議論することが必要である。観光振興に関しては、2020年の大河ドラマで注目を浴びることになる。鉄道もあるが、1時間の1本程度という状況では、来丹される方には不便である。鉄道について、都市構造の中で議論をお願いしたい。

#### 委員

私の単位自治会においても、高齢化率が42%となっている。20年後を考えていると、自治会が残っているか心配である。今ある299の単位自治会が存続できるような対策を考えていければよいと考える。安全・安心について、どのような災害が起きるか予測ができない近年においては、自治会消防のあり方を議論に入れるべきでは。

#### 会長

単位自治会の問題はよく出てくるテーマである。100以上の公民館がある他の自治体の話であるが、地元の方と一緒に、非常勤であろう市の職員も入り、公民館運営をいかに支えていくかということを議論しているまちもある。

#### 委員

近隣市町、隣接する福知山市の状況を知りたい。隣接都市の情報をそろえて欲しい。

#### 会長

丹波市の将来像を議論するにあたっては、隣接する地域の情報は知りたいところである。周辺自治体の将来ビジョンがどうなっているのか。周辺自治体の情報も手に入れておかないと、戦略的な議論が行えないため、資料収集等について事務局に依頼する。

#### 委員

平成 22 年からデマンド（予約）型乗合タクシーが開始されている。丹波市の都市構造は、面的に広がっているというよりは、道路を軸として道路沿いに張り付いていく構造となっている。都市機能は分散した形よりも、中心部に一定の集積をしていく方向性の中で、住み慣れた地域に住み続けることを目指していくことが適していると考えている。その姿を目指すにあたって、大事なのは移動する手段である。デマンドに期待して、運行エリアを広げると、タクシーや路線バスに大きな影響を与える。デマンドばかりに期待されすぎても大変なので、ある程度エリアを絞った方がよい。また、現在、デマンドは高齢の方、バスは通学の方によく利用されている。丹波市では、デマンドの登録や利用が思ったより多く驚いている。デマンドの利用状況は、データの蓄積があり、データを活かして、都市機能や土地利用のあり方の検討に活用できればと考えている。高齢化や少子高齢化の問題が今後ますます深刻になる中で、高齢者の方がいかに元気にいていただくかという観点が必要で、そのためには行きたいところに行けるということが重要である。丹波市では、デマンドといった交通手段が重要であり、それ以外に新たな手段があるかもしれないが、公共交通手段については、丹波市地域公共交通活性化協議会でも議論していきたい。

また、思った以上に様々なところで、人手不足が深刻な状況である。バス運転手、地域で何かをしてくれる人手が足りないなど。そのために、自動化なども視野に入れるとともに、多様性を取り入れながら、市民参画のあり方も考えていくことが必要である。

#### 委員

子どもが高校に通っているが通学手段は、部活をする場合は親が送り迎えしなければならない。自分の子どもたちが、20 年後、同じように苦勞をするのかと思うと、はたして同じように丹波に住んで子育てをするのかといった気がする。便利な氷上や柏原に住めば、子どものために職場を変えなくてよいが、不便な地域に住む同世代の親は苦勞をしている。神姫グリーンバスで青垣に通う生徒には、定期の補助があるが路線によっては補助がない。デマンド（予約）型乗合タクシーは、旧町域内でしか利用できないので、市外の病院へは直接行けない。デマンドのあり方ももう少し考えていただけたらと思う。

市内を円滑に移動できるような仕組みがないと、若い人が帰ってこようという気にならないのではないかと。

#### 委員

情報を受け取る媒体を持っていない世代（高齢者や子ども）に情報が伝わっていないのが現状である。情報媒体を持っていない世代にスマートフォンやタブレットを市から配布することで、情報を受け取る環境を整えることが必要である。

#### 委員

20年後の都市構造のビジョンについては、B（住み慣れた地域に住み続ける＋中心部に都市機能を一定集積）もしくは、C（都市機能が集積した中心部に集まって住む）にしていきたいと考えているのだと思う。20年後は人口が減り、税収も減る。大学を出て丹波へ帰ってくるケースは稀である。収入が減る中でどうしていくかを考えるべきである。そう考えると、将来は限りなくCに近いBになっていくのではないかと。さらに、20年先には、人口減少、収入減によりBの形も維持できない状況になるのではないかと。そうなれば、人口を維持しようとするれば、便利な場所、例えば駅の周りに都市機能を集積し、そこに人口を集めていくしかない。限りなくCに近いBを考えることになると思う。

また、20年先は自動運転が普及している。高齢者が移動する仕組みとしては、自動車でフレキシブルに移動できる仕組みが必要なので、お金がどれくらい必要なのかなど、具体的に検討していくべき。また、丹波市でいかにお金を市内で回していくかのといった仕組みも必要であり、ある程度中心部の都市機能を維持していくことが必要である。

#### 委員

移動手段をしっかりと確保することが大事である。地域が元気であることは、高齢者や小さい子どもでも行動範囲が広いことでもある。広い行動範囲を確保していくためのイメージとして、デマンド（予約）型乗合タクシーはランダムに動くパターンであるが、もう一つ、ハブ的な場所があって、そこから循環するパターンがある。循環するパターンのほうが効率的で経済的で運営できるのでは。

#### 委員

自動運転など最新技術に関して、世界動向についての情報が必要である。ヨーロッパは特に参考になるのでは。鉄道利用して生活している人は極端に減ってきている。移動手段として車が非常に重要なものとなっている。中心部に都市機能を集めるといったとき、鉄道を中心に考えるのではなく、自動車利用を中心に周辺との交流を考慮しながら、旧6町にこだわるつもりはないが、どこかに拠点的な場所が必要である。

## 委員

この審議会の立ち位置を教えて欲しい。市では、様々な計画があり、それぞれの審議会が設置されている中でこの審議会の議論は包括したような話になるので、この場でどこまで議論するのか。

## 事務局

20年後の丹波市の姿を想像し、必要な取組みを審議する場である。少子高齢化が進んだ状況の中で、丹波市をどう維持していくか。市の財政面も縮小していく中で、公共施設をどのよう管理していくのかといったことも課題である。そのために、ある程度公共施設を集約していくことが考えられるし、広いエリアの中で住み慣れた地域に住み続けていきたいといった考え方があれば、それをどのように維持していくのかといったことも検討していく必要がある。そのためには、自治協議会や地域の取組みがどのようにあるべきかなどということも検討する必要がある。一定の集積と分散を考える中においては、公共交通についても非常に大切である。市の最上位の計画として総合計画があり、その下に各分野別の計画があるが、今後、更に効率的、効果的まちづくりを進めていくためには、全体のまちの姿をとらえた中で、それぞれの計画が同じ方向性での計画の見直しも必要になる。この審議会では、丹波市の20年後の未来の姿を実現していくために必要なことを話し合い、それぞれにある計画の中に反映したい。包括的に考えていくことになるが、ご理解いただきたい。

## 会長

市の最上位計画に全てのジャンルにわたる10年計画である総合計画があり、総合計画を受けて、都市計画に関する10年計画である都市計画マスタープランがある。人口減少・高齢化が進展していく中で20年後の状況は、どの自治体においてもわかっていない。そのため、既存の計画の枠組みを越えて、みんなで議論していこうというのがこのビジョンづくりである。20年後どうなっているのか、地域構造や都市機能など都市空間に焦点を当てて、産業やライフスタイルなどについてどのように支えられているのかなどを議論していくことになる。自分たちの子どもたちの世代がどのようになっているのかといった丹波市の構造を議論しましょうという場である。この場での議論した結果が次の総合計画や都市計画マスタープランに反映されるものと思っている。

## 委員

できるだけたくさんの方が納得した未来都市を創ることが大事である。健康な時は自立した生活をしたと思う人がいるし、その人を支える周りの人もいる。男女共同参画の視点からいうと、丹波市はまだまだ不十分である。女性の意識、男性の意識を変えていく中で、前向きな人が出てきて、支える人や、元気な方を増やすような施策が必要で

ある。一人ひとりが自分の居場所を見つけられている将来の姿があればよいと考えている。

#### 委員

子どもが市外にいるが、家が柏原にあったらもっと帰ってくるのによく言う。公共交通機関が不便であるということは、住んでいる人はもちろん、観光客にとっても同じことである。鉄道を使って訪れることができるまちが、やはり訪れやすいまちである。観光客もデマンド（予約）型乗合タクシーが使えるといったようなまちづくりもあるのでは。綾部市によく行くが、あやバスという市民バスがあり、市民によく使われている。20年後のまちの姿を想像すると、C（都市機能が集積した中心部に集まって住む）のパターンは極端すぎるので、B（住み慣れた地域に住み続ける＋中心部に都市機能を一定集積）のパターンになると思う。自動車が運転できなくなり行動範囲が狭くなると楽しみがなくなる。インフラの充実が当面の課題である。

#### 委員

地域の中では、特技を持っていて色々なことをやりたいといった人がたくさんいるが、活躍をするところがないと言っている人がいる。20年後の都市構造はB（住み慣れた地域に住み続ける＋中心部に都市機能を一定集積）になるのかと思う。集積された1箇所に行けば買い物、病院、行政サービスなど全ての用事を済ますことができるのは良い。交通手段は後々考えていければ。Bの後、最終的にはC（都市機能が集積した中心部に集まって住む）になっていくのかと思う。

#### 委員

地域の活性化は、地域経済の活性化と切り離すことができない。それぞれの住み慣れた所に住んで、住んでいる所のよさに磨きながら、生活できるような仕組みができたらいよい。高齢になったからといって、住み慣れた地域を離れて中心部に移り住もうといったことにはならないのではないか。住み慣れたところの人のつながりは大きい。縮小ばかりではなく、希望を持った計画としてほしい。

#### 市長

未来に向けた施策を実現していくための審議会である。過日、総務省との意見交換の機会があり、先々のことを考えると、下水道や水道などの都市機能を縮小していくことを考えるべきという意見をいただいた中で、中心部に機能を集めながら、周辺部にも住み続けられるようになることを提案しているが、皆さんがどのように考えているのか、忌憚のない意見をお聞きしたい。我々の立場で何もしないといったことはできない。我々も悩みながら、皆様のご意見を聞きながら、少なくとも20年間は責任を持った計画を作っていきたい。

会長

この会議は今からまさにスタートしたところであり、都市構造をA（住み慣れた地域に住み続ける＋品各地に都市機能は分散）・B（住み慣れた地域に住み続ける＋中心部に都市機能を一定集積）・C（都市機能が集積した中心部に集まって住む）のどれを目指していくのかは多数決で決めるようなものではない。皆さんのご意見を聞いていると、住み慣れた地域を大事にしながらも、都市機能はある程度集約していかなければいけない。20年・30年、時間とともにCの方に近づいていくかもしれないが、まず、この20年の間にはBの方へ進めていくべきという意見の方が多かったように思う。そのためにも、交通ネットワークと施設配置の話は、パラレルに同じ状況で議論を進めていかなければならないと良い状況が生まれてこないといった印象を持った。

また、これから自動運転や情報格差がなくなってくる中で、技術の変化も読み込みながら、人の行動パターンを予測し、合理的かつ便利に動ける仕組みと施設配置を考えることは重要な議論のポイントになる。いずれにせよ若い人がもう少し地域で頑張る、戻ってきたいと思えるような都市をつくっていくことが大事である。

### （3）その他

委員

声がよく聞きとりにくいので、次回は場所を変えてほしい。

事務局

できる限り対応するようにしたい。

### （4）閉会

副会長

各地域、各組織に持ち帰っていただき、様々な意見を聞いていただくなかで、次回からの審議に活かさせていただければと思います。ご苦労様でした。